

外壁改装作品コンテストの表彰について

2024年5月28日

一般社団法人建築開口部協会

一般社団法人建築開口部協会では、建物の安全性・省エネ性能・美観等の向上につながる外壁の改装について、関係者の技術力の向上と外壁改装の魅力発信を目的に、第8回外壁改装作品コンテストを実施しました。

選考委員会（委員長：坂本功（一財）日本建築防災協会 前理事長）での審査を経て、優秀賞2件、入賞2件を決定し、2024年の定時総会後に表彰を行いました。

1 表彰作品の概要

(1) 優秀賞 2件

物件名：大手町ビル・リノベーション

応募者：株式会社三菱地所設計

特徴：大手町ビルは、大名小路/丸の内仲通り/日比谷通りの3つの通りに接することから、水平垂直に組み立てられたフレームで覆い統一感を持たせつつ、3つの通りそれぞれの歴史的背景やイメージを外装デザインに反映。大名小路に面する東側は、東京駅にも用いられている“レンガ”基調とし、日比谷通りに面する西側は皇居のお濠などを想起させる“石垣”をモチーフとしたデザインに、丸の内仲通りが貫通する中央部分は“通り抜け感”を演出するガラス素材により構成されており、それぞれ通りの“ストーリー性”をデザインに取り込んだ。

<before>



<after>



物件名：大成建設株式会社 横浜支店ビル

応募者：大成建設株式会社 横浜支店

特徴：自社グループの既存オフィスストックにおいて最適な省エネルギー・創エネルギー技術を導入し使いながらのZEB化（ZEB Ready 取得）工事の実践を行った。

省エネルギー・創エネルギーの技術として、窓開口部にLow-E 複層発電ガラス（T-Green® Multi Solar シースルータイプ）を設置し省エネ・創エネを実現。またスパンドレルの外壁躯体面には、太陽光パネルのユニットを

外付けで設置して創エネを現した。外付け部の太陽光パネル（T-Green® Multi Solar ソリッドタイプ）は防眩仕様のカラータイプとなっており従来の黒くギラギラした太陽光パネルの印象を一新させる外装建材である。正面のファサードは一新しており、断面的に分割されている外装サッシと外付けユニットを一体的に見せるために、外装サッシ（引き戸）の上下框を外付けユニットに隠れる位置に設定している。

<before>



<after>



(2) 入賞 2件

物件名：ルーシッドスクエア新宿イースト

応募者：株式会社ベネフィットライン

特徴：1990年に竣工したオフィスビル「新宿 TX ビル」の内外装改修プロジェクト。

改修コンセプトとして渋谷エリアの先進性、新宿エリアの多様性を表現し、ビルのバリューアップを目指した。建物外装材には国内では採用事例の少ないアルミ光輝合金発色パネルを用いている。光沢度の高い特殊アルミ材である光輝アルミ合金をベースに表面に電解研磨処理、エッチング処理を施すことで独特の淡い輝きを放つ材料はビルに先進的なイメージを与えている。不規則なパターンで割付られたアルミパネルは、臙げに周囲の風景や天候の変化を映し出し、多様性を表現するビルの顔としてバリューアップに寄与している。

また、t6mmのアルミキャストパネルからt2mmのアルミパネルに改修することで外装材量の軽量化を図り、建物躯体への負荷を低減し、長寿命化にも貢献している。

<before>



<after>



物件名：AXビル

応募者：株式会社高藤千尋建築設計事務所

特徴：JR大阪駅前の桜橋交差点に近い曾根崎通りに面したSRC造10階建てテナントビルの外装改修計画。

築35年の既存建物の外壁はタイルで覆われ、経年劣化によるタイル剥離対策と建物リニューアルを同時に実現することを目標に、タイル壁も開口部も、カーテンウォールで一体的に覆う計画とした。剥離タイル押えとして3色に塗装されたバックパネルを設置し、これとカーテンウォール枠の格子形状をランダムに展開することで、多様な表情を見せるファサードを計画した。夜には梅田の街の賑わいを映し出すスクリーンとなる。また既存躯体とカーテンウォールとのダブルスキンとなることで、内部空間の遮音、遮熱性能も向上した。

<before>



<after>



2 応募条件等

- ・2020年3月～2024年3月に竣工した外壁を改装した建物であること
- ・応募期間：2023年10月1日～2024年3月末日

3 選考委員会

委員長	一般財団法人日本建築防災協会	坂本功	前理事長
副委員長	東京大学大学院	清家剛	教授
	東京都立大学大学院	小泉雅生	教授

4 外壁改装作品コンテストの経緯

第1回は1998年、以後3～4年おきに実施し、今回が第8回となります。